

ナンヨウボウズハゼ属の雌を水中で見分けよう

くまぎわのぶひろ
熊澤伸宏 (魚類ボランティア)

沖縄県には大小合わせて300余りの川が流れています。その溪流(図1)の澄んだ水に顔を浸けると、まるで宝石のように美しい魚を見ることができます。その代表格がハゼ科ナンヨウボウズハゼ属のナンヨウボウズハゼで、日本産の同属にはヒスイボウズハゼ、コンテリボウズハゼ、ハヤセボウズハゼ、カキイロヒメボウズハゼを加えた5種が知られています。それらのうち、カキイロヒメボウズハゼ(屋久島でのみ記録)を除く、4種が沖縄県の川から見つかっています。



図1 ナンヨウボウズハゼの仲間が住む沖縄の溪流。

ナンヨウボウズハゼ属のハゼに共通する特徴は、雄がカラフルでとてもきれいな色(図2~6)をしている一方、雌はいずれもオフホワイトの地色に、体の横に2本の黒いラインを持つだけのほとんど同じ地味な色彩をしています(図7~12)。そのため、水中観察や写真でその違いを見分けるのは、魚類の研究者でも容易ではありません。そこで筆者はそれらの画像を魚類写真資料データベースに登録してナンヨウボウズハゼ属の分類や分布、生態の研究に役立てるため、雌の種類を見分ける方法を探ってきました。たくさんの観察と記録した映像を整理した結果、かなりの精度で見分けられるポイントがわかってきましたので、ここに紹介します。なお、写真はすべて筆者が撮影したもので、KPM-NRからはじまる番号は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベースの資料番号です。

見分けるポイントとは、①体の大きさ ②体の横のライン ③胸^{むなびれ}と尾^{おびれ} ④尾^{こくはん} ⑤周りの仲間 ⑥尾^{こくはん} ⑦尾^{こくはん} ⑧尾^{こくはん} ⑨尾^{こくはん} ⑩尾^{こくはん} ⑪尾^{こくはん} ⑫尾^{こくはん} ⑬尾^{こくはん} ⑭尾^{こくはん} ⑮尾^{こくはん} ⑯尾^{こくはん} ⑰尾^{こくはん} ⑱尾^{こくはん} ⑲尾^{こくはん} ⑳尾^{こくはん} ㉑尾^{こくはん} ㉒尾^{こくはん} ㉓尾^{こくはん} ㉔尾^{こくはん} ㉕尾^{こくはん} ㉖尾^{こくはん} ㉗尾^{こくはん} ㉘尾^{こくはん} ㉙尾^{こくはん} ㉚尾^{こくはん} ㉛尾^{こくはん} ㉜尾^{こくはん} ㉝尾^{こくはん} ㉞尾^{こくはん} ㉟尾^{こくはん} ㊱尾^{こくはん} ㊲尾^{こくはん} ㊳尾^{こくはん} ㊴尾^{こくはん} ㊵尾^{こくはん} ㊶尾^{こくはん} ㊷尾^{こくはん} ㊸尾^{こくはん} ㊹尾^{こくはん} ㊺尾^{こくはん} ㊻尾^{こくはん} ㊼尾^{こくはん} ㊽尾^{こくはん} ㊾尾^{こくはん} ㊿尾^{こくはん}

① まず、体の大きさです。大きさと言ってもパッと見た目の感覚的な大きさですが、ヒスイボウズハゼ、コンテリボウズハゼ、ハヤセボウズハゼの雌の成魚は、目撃した多くの人から「でかい」「巨大」という表現で語られるように、4種の中で圧倒的に数の多いナンヨウボウズハゼと比べて体のサイズが大きいのが一般的です。微妙な違いでなく、遠目からでもパッと見て大きければこの3種である可能性が高いと言えるでしょう。

② 次に、体の横の二本のライン(縦線)の太さと形状です。4種の中で下(腹側)のラインが明らかに太いのがコンテリボウズハゼとハヤセボウズハ

ぜです(図9~11)。これまで多くの図鑑でナンヨウボウズハゼのラインは直線状で、コンテリボウズハゼやハヤセボウズハゼのそれはジグザグ状とされてきましたが、そうでない場合も多くあるようです。むしろコンテリボウズハゼやハヤセボウズハゼでは太くてきれいな直線状であることも多く、一方、ナンヨウボウズハゼの場合はジグザグだったりクロス・ステッチ状だったり、あるいは折れ曲がって太さも一定でなかったりと、個体によってかなりの違いがあるようです(図7)。

最も特徴的なのがヒスイボウズハゼです。そのラインは上(背中側)が他の3種に比べて最も細く、かつ色も薄い傾向にあります。さらに最大の特徴と言えるのが下(腹側)のラインで、キャタピラーの様な模様をしています。直線の上下に長方形が交互に並ぶようなイメージです(図8)。ヒスイボウズハゼはこの特

表1 ナンヨウボウズハゼ属4種の雌の識別ポイント

	ナンヨウボウズハゼ	ヒスイボウズハゼ	コンテリボウズハゼ	ハヤセボウズハゼ
成魚の体のサイズ	他の3種より小さい	大きい	大きい	大きい
体の側面のラインの太さ	普通	上(背中側)のラインが細く色が薄い傾向	下(腹側)のラインが太い	下(腹側)のラインが太い
体の側面のラインの模様	直線状, ジグザグ状, クロス・ステッチ状	下(腹側)のラインがキャタピラー状	直線状, ジグザグ状, クロス・ステッチ状: 赤みを帯びる場合がある	直線状, ジグザグ状, クロス・ステッチ状
胸鰭, 尾鰭の点列模様	なし	なし	胸鰭, 尾鰭とも付け根付近に散在の場合あり	明瞭な点列あり
尾鰭付け根の黒斑	ほぼ丸	ほぼ丸	後方にとがる傾向	ほぼ丸

徴が際立っており、水中の観察でもとてもわかりやすいので、キャタピラー状のラインが確認できればほぼ確実にヒスイボウズハゼとみなすことができます。

また、コンテリボウズハゼには二本の黒いラインにオレンジ色を上塗りしたような色彩を帯びる場合があります(図10)。この“赤いタイプ”はコンテリボウズハゼに特有であり、確実に見分けることが可能です。

③ 胸鰭と尾鰭にも特徴が良くあらわれます。胸鰭に明瞭な点列が見られるのはハヤセボウズハゼです(図11)。コンテリボウズハゼにも胸鰭の付け根付近に散発的に黒点が見られることがあります。

尾鰭も同様で、ハヤセボウズハゼは尾鰭の全体にわたって明瞭な点列が見られます。コンテリボウズハゼも尾鰭に点

列が見られますが、位置的には尾鰭の付け根近くの中央から下半分に集中しています(図9, 10)。なお、ナンヨウボウズハゼとヒスイボウズハゼは通常は胸鰭にも尾鰭にも点列は見られません。

④ 尾鰭の付け根部分にある大きな黒斑が、コンテリボウズハゼに限り後方に向かって尖る傾向にあります。その下地のオフホワイトの部分も黒斑を縁取るように尾鰭の方向に尖ります(図9, 10)。

⑤ 周囲の仲間も見分けるための重要な情報です。個体数の多いナンヨウボウズハゼやヒスイボウズハゼは、集団で徒党を組んで飛び回っている印象を受けます。コンテリボウズハゼはそもそも個体数が少ないので単独行動のように見えませんが、その周りには着かず離れずで同じ仲間がいる場合が多いです。いった

ん遠くへ離れてもまた仲間のいるところへ戻ってきます。なお、ナンヨウボウズハゼ、ヒスイボウズハゼ、コンテリボウズハゼの混在も多くみられます(図12)。ハヤセボウズハゼは圧倒的に個体数が少ないので、そもそも単独行動なのか、それとも結果的にそうなのかは明らかではありません。

以上の特徴を確認することで、それぞれの種類の雌を見分けることができると思われますが、図13に示したナンヨウボウズハゼ属と思われるハゼは、体にラインがあり、背鰭が赤くカラフルであるというこの属の雄と雌の特徴を合わせて持っています。今後、同定の精度をより高めると同時に、こうした正体不明のハゼの実態を明らかにするべく観察と撮影を継続していきたいと思えます。



図2 ナンヨウボウズハゼ(青いタイプ, 雄, KPM-NR 147578), 沖縄島.



図3 ナンヨウボウズハゼ(赤いタイプ, 雄, KPM-NR 147579), 西表島.



図4 ヒスイボウズハゼ(雄, KPM-NR 147580), 沖縄島.



図5 コンテリボウズハゼ(雄, KPM-NR 147581), 沖縄島.



図6 ハヤセボウズハゼ(雄, KPM-NR 147582), 西表島.



図7 ナンヨウボウズハゼ(雌, KPM-NR 147583), 西表島.



図8 ヒスイボウズハゼ(雌, KPM-NR 147584), 沖縄島.



図9 コンテリボウズハゼ(雌, KPM-NR 147585), 沖縄島.



図10 コンテリボウズハゼ(雌, 赤いタイプ, KPM-NR 147586), 沖縄島.



図11 ハヤセボウズハゼ(雌, KPM-NR 147587), 西表島.



図12 手前からナンヨウボウズハゼ KPM-NR 147588, ヒスイボウズハゼ KPM-NR 147589, コンテリボウズハゼ KPM-NR 147590 の雌, 沖縄島.



図13 正体不明のナンヨウボウズハゼ属と思われるハゼ(KPM-NR 147591), 西表島.